

ベストな値はその人によって違い、ただ高ければいいというわけではない。自身の平均値と比べてどうかを見る。一定の値を保った状態が望ましく、じわじわと右肩下がりになっていたら要注意だ。

声はうそをつけない

そもそも、なぜ声で心の状態が分かるのか。MIMOSYSは、声帯の不随意反応（自分の意思とは関係なく、体が勝手に動いてしまう現象）に着目して、声の周波数の変動パターンなどから心の状態を分析している。

例えば、人前で発表するときに緊張して、声が上ずったり、怖いシーンの映像を見てキヤッと声を上げたりすることがある。こうした声帯の反応は、自分の意思ではコントロールできない。つまり声はうそをつけないため、心の状態を正確に測定できるというわけだ。

PSTはさまざまな実証実験をしている。あるとき、MIMOSYSが示す数値は悪いものの、「私は大丈夫です」と言い続ける社員がいた。

よくよく話を聞くと、部署内でいじめがあつたことが判明。配置転換したら元気を取り戻し始めたという。「規律の厳しい職場で弱音を吐けない人を見つけることができるものMIMOSYSの特徴」とPSTの大塚寛社長は話す。



運送会社のドライバーはMIMOSYSを利用して、メンタルの状態を毎朝チェックする

「つばさメンタル」のサンプル画面



危険運転や事故の予兆を解析

活用事例

つばさトラック事業協同組合

運送事業者二十数社が加盟するつばさトラック事業協同組合(東京都立川市)では20年1月から、MIMOSYSを使い、実証実験を始めている。運送会社4社、ドライバー延べ80人が参加。今年2月からは「ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金(ビジネスモデル構築型)」の採択を受け、30社、300人に拡大して実施の予定だ。

運送会社には運転前後のドライバーへの点呼で、アルコール検知器を使った検査と、運転者が安全に乗務できる健康状態かどうかを必ず口頭で確認することが義務付けられている。

その流れで、ドライバーに「おはようございます」「安全最優先」「行ってきます」の3語を言ってもらう。この3語はつばさトラックのオリジナル。3語は各社で自由に設定できる。

毎日のことで機械的な点呼になっていたところに、「これは何? 何が分かるの?」といった会話が生まれ、コミュニケーションが円滑になったという。

つばさトラックの車両には、運転の記録